

- ランドバンクエリア内の空き地を面的に再編するまで、公益性のある芝生空間等として暫定利用を図り、低コストで管理できる手法を検討
- 大学生や地元の子供達、ランドバンク会員で芝はりイベントを実施し、芝の生育観察等を調査
- 芝生空間への反響も大きく、地域住民で管理する意識も高まりつつある

背景・課題

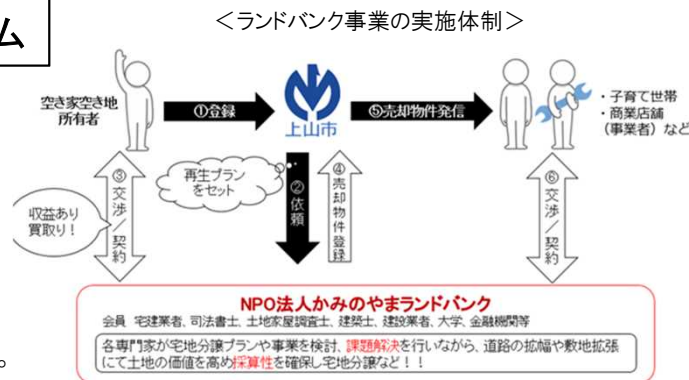
取組対象地域では、増加する空き家・空き地をランドバンク事業によって一体的に再編し、快適な居住環境とし、土地の価値を高めることが求められている。中心部の空き家はまばらに発生し、面的に再編するまで、暫定利用を図り、種地として確保しつつ、低コストで管理していく必要がある。

調査目的

上山市が寄付を受け、NPO法人かみのやまランドバンクに無償貸し付けされた空き地について、芝はりの社会実験を行い、面整備がされるまでの暫定利用として、芝生空間を整備し、管理していく方法についての知見を得る。

事業内容・スキーム

NPO法人かみのやまランドバンクと上山市は空き家・空き地対策に関する連携協定を締結しており、ミニ区画整理事業等により宅地分譲を推進するスキームを既に構築済みである。



モデル調査の成果

- ・夏の繁茂期から冬の降雪前において3種類の芝生の状況を検証した。
- ・今回の取組では芝生空間を再編のタネ地として利用するだけでなく、地域の子供たちの郷土愛を育むため、芝張り体験も実施
- ・3種類の芝の生育状況や雑草等の生え方に大きな違いはなかったが、「姫高麗芝」は柔らかく人が触れる場所に適しており、単価も最も低いため、今後は「姫高麗芝」を積極的に活用することを検討する。

＜芝はりの様子＞



明海大学や地元の子供達、ランドバンク会員等で、造園業者より指導を受けながら、芝張り、肥料散布と散水を実施

＜芝はり後の空き地の様子＞



- ・芝生空間に対する地域住民や地域の小学生の反響も大きく、地域住民が管理をする意識が高まりつつある。
- ・隣接する武家屋敷の敷地を小路により接続したことで、新たなコミュニティの創出と回遊性の向上を目指す。また、コロナ禍の屋外利用ニーズの高まりから、近隣の空き家へのカフェなどの誘致・再生も検討する。

【事業内容】

1. 大学生や地元の子供達、ランドバンク会員及びスタッフによる芝はりを実施
2. 芝はりイベントにより植えられた「野芝」「姫高麗芝」「高麗芝」の3種類の芝について、生育状況等を観察し、管理の負担が最も少なくなる芝の種類を調査

＜本モデル調査で検証する芝はりの実施体制＞

